

頚椎症性脊髄症術後の軸性疼痛に対する早期運動療法の有用性についての検討

1. 研究の対象

当院にて頚椎症性脊髄症と診断され後方より椎弓形成術を施術された患者を対象とする。

2. 研究目的・方法

当院にて頚椎症性脊髄症と診断され後方より椎弓形成術を施術された患者を対象とし、カルテより手術やリハビリ情報を後向きに確認する。術前後に同一のプロトコールを実施し早期からの運動療法が有用であるかの検討をすることを目的とする。

軸性疼痛の有無にて2群に分け年齢、椎間数、カラー装着期間、手術時間、出血量および頚椎可動域を検討する。症例予定数は30例とする。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、椎間数、カラー装着期間、手術時間、出血量および頚椎可動域 など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

京都中部総合医療センター 患者相談係

研究責任者:

京都中部総合医療センター リハビリテーション科 恩村 直人

-----以上